episode 37　みんなに望まれ祝福された、あなたのうまれたひ

投稿者　M さま

『あやちゃんのうまれたひ』
浜田桂子 さく・え
福音館書店　1999年

朝起きると、離れて暮らす娘からLINEがきていた。発信は夜中の0時59分。
その日が私の誕生日ということを覚えていて、日付が変わってから送ってくれたのだろう。
「誕生日おめでとう」の文言とともに、「お母さんの事が一番大好きです」と書いてあった。
「毎日繋がっていようね」とも。
中学の頃から荒れ始めた娘。母親の私に対しても反発がひどく、非行に走り、思いもよらぬ方向にいってしまったのに、こんなふうに真正面から「大好き」と言ってくれることに胸が熱くなった。
家にも居つかず、糸の切れた凧のようになったこともあったのに。

娘は二歳のときに、わが家にやってきた。
産みの親が育てられない事情があり、生後すぐに施設に預けられ、そこから私たち夫婦のもとに来たのだ。
娘がうちに来たばかりの小さい頃、寝かしつけるときは、いつもお話をしていた。
昔話のほか、よくこんなお話をした。
「あるところに、とてもかわいい女の子がいました。
その子が生まれるのを、お母さんとお父さんはずっと楽しみに待っていました。
おもちゃやお布団をそろえて待っていました。
おばあちゃんとおじいちゃんも、かわいい洋服を準備して待っていました」

お話を語りながら、私の頭には『あやちゃんのうまれたひ』の絵とストーリーが浮かんでいた。
娘の名前を入れ、季節を春に変え、どんなに待ち望んだ赤ちゃんだったかを、何度も何度も語り聞かせた。
娘が生まれたときのことは、何ひとつ知らない。
でも、周りのみんなに望まれ、祝福されて生まれてきたのだと知ってほしかった。
だれしも、そうであってほしいと強く思っていた。

私に宛てた娘のメッセージを読み、いつかの思いが届いている気がした。
きっと自分の誕生日も誕生も、大切に思ってくれているにちがいない、と。

「絵本の日アワードin FUKUOKA 2020」投稿作品より

本連載は「医療法人元気が湧く」が主催する“絵本の日アワード”に応募された作品を掲載していきます。毎年、300～450編の応募がある「絵本にまつわるエピソード」の作品から、「絵本の魅力」と「絵本のチカラ」のつまったエピソードを選び、その魅力と感動を読者の方々にも共有していただきたいと願って、投稿者の了解を得て紹介しています。

さらに、人に影響を及ぼした絵本のバックグラウンドについて、司書の専門的な視点による解説を加え、一冊の絵本をある部分では“深く”、そしてある部分では“広く”、興味を広げていただきたいと企画しました。

出産の記録描写画が絵本になる日

『あやちゃんのうまれたひ』は、絵本作家・浜田桂子氏のデビュー作です。月刊絵本「こどものとも」1984年12月号で誕生しました。

本作は、作者自身の体験が元となっています。10代のとき両親を病気で亡くし、「人はどれほど祈ろうと、死ぬときは死んでしまう」と、命に対する不信感のような気持ちを体験するのです。

しかし、その思いが180度変わる体験となったのが、出産です。「自分が生まれてきたことのすごさや奇跡に感動し、命は消えるのではなく、つながるということを深く自覚しました」と語っています。そして、あかちゃんを父や母に見せたかった思いをこめて、自分のために「命がつながっていくこと」を鉛筆書きで表現したのでした。

その私家版を、友人の縁で福音館書店の編集者に見てもらう機会が得られて、デビューに至ったというわけです。

「命」　絵本作家の願い、大人の願い

デビュー作に当たり37歳の浜田氏は、作品への思いを月刊誌の折り込み付録に綴っています。

「幼い命は、本来、自ら成長していく力に満ち満ちているものだと、つくづく思います。どの命も阻まれることなく、どうか持てる力いっぱいに伸びていってほしいと願わずにいられません。」

ここに浜田桂子氏の、絵本作家として原点となる誓いがあるのです。この誓いを根底に、今日まで作家活動を精力的に続けてきた浜田氏の代表作となったのは、2011年に出版された『へいわってどんなこと？』(童心社)です。

浜田氏はデビュー前の子育てを通して、「平和の絵本というと、なぜ戦争のむごたらしさや辛さを描いたものばかりなのだろう」という疑問を抱いていたと言います。平和が素敵で、嬉しくて、愉快なこと、だから「平和がいい」と伝える絵本を探したけれど、みつけられないでいたのです。

そこで、戦争の残酷さと平和の嬉しさ、その両方が語られた「平和の絵本」を自分でつくろうという内なる声が、ついに形となったのです。

大人へ問う「へいわって どんなこと？」

『へいわってどんなこと？』は、「日・中・韓平和絵本」シリーズの１作目として出版されました。

発端は、2003年に始まったイラク戦争に、日本政府が自衛隊派遣を表明したため、それに反対する絵本作家103名で、『世界中のこどもたちが103』(講談社）を出版したことです。そのプロジェクトの実行委員を務めたのが、浜田氏と、絵本作家仲間である田島征三氏、和歌山静子氏でした。

当時、首相の靖国神社参拝や、従軍慰安婦の教科書削除などの問題が相次いで起きたため、１冊の絵本で終わらせるのではなく、次のステップとして「アジアの人たちと向き合うこと」を提案した田島氏と、浜田氏、和歌山氏、それに田畑精一氏も加わって日本の絵本作家４人が、中国と韓国の絵本作家たちに呼びかけたのです。

そして2007年、日中韓総勢12人で共同の、平和をテーマにした「日・中・韓平和絵本」プロジェクトが始まり、2010年から2018年にかけて３か国で共通する11冊の絵本が出版されました。

しかし、韓国の絵本作家が描いた元「慰安婦」をモデルにした一冊が、日本で決まっていたシリーズの出版社による発行が実現できずに、８年かけて他の出版社より刊行されることになりました。「社会の空気」によって表現の自由が脅かされるという構図は、果たして「平和」といえるのか、問題提起されたのでした。

文献

1）福音館書店編集部：あやちゃんのうまれたひ，こどものとも（345），折り込み付録，1984.
2）福音館書店編集部：浜田桂子さんの絵本「へいわってどんなこと?」「あなたが生まれてきたことはすばらしい」と言い続けて，好書好日 HP https://book.asahi.com/article/13568012　2020/7/27
3）浜田桂子（講師）：講演「子どもの命、子どもの平和～絵本にこめる想い～，福岡県子育て保育の集い（福岡県保育センター 第35回，福岡 クローバープラザ，2026/2/11